

産業機械メーカーの協和フアインテック(岡山市東区金岡西町)は、フィルムやチューブなどの生産に用いる押し出し成形機器の製造事業に参入した。原料の樹脂を成形する金型の設計、製作を中心に、生産ライン全体の構築も手掛ける。樹脂製品の高度化に伴って拡大する成形機器のニーズをつかみ、新たな事業の柱に育てる。(伊東圭一)

押し出し成形機器参入



協和フアインテックが製造する押し出し成形機器の一例

のほか、樹脂を正確な分量で押し出すギアポンプ、成形後に薄く引き伸ばして仕上げる延伸機などを顧客の注文に応じて製造する。このうち金型は、固く加工が難しいニッケル合金などを100分の1ミリ単位で切削した複数

インとして供給する。価格はフッ素樹脂用の標準的なラインで2千万円程度。2020年に年20億円の売り上げを目指す。

押し出し成形は、ゲで普及している。

ル状の樹脂に高圧をかけ、金型内部の流路を通過させながら固めて均一な形にする加工法。薄く精密な形状や、数種類の樹脂を積層させた高機能品が造りやすく、工業用フィルムや食品容器などの製造に、チューブは化学工場の配管内部などに使われる。

のパーツで構成。効率的な流路を設計したり、樹脂が劣化しないよう金型内の温度を制御したりする。

橋本宗幸専務は「押し出し成形機器は製品ごとに受注するケースが多いため大手が参入しにくい分野。独自技術で販路を開拓したい」と話している。

押し出し成形に用いる金型の溝が樹脂の流路

の溝が樹脂の流路

の溝が樹脂の流路

高付加価値製品向け 型設計、製作も生産ライン構築

協和フアインテックは1955年設立。資本金3700万円。売上高約22億円(15年2月期)。従業員180人(パート含む)。